日本海の神々

~古代の日本海文化~

河村哲夫

- 1、彌彦神社(新潟県西蒲原郡弥彦村弥彦)
- (1)祭神は天香語山命(あめのかごやまのみこと)
- (2)由緒

①越後の開拓

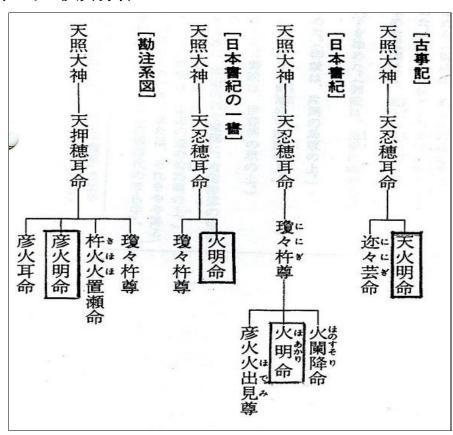
神武天皇の命を受けて、野積の浜(長岡市)に上陸し、地元民に漁労や製塩、稲作、養蚕などの産業を教えたとされる。このため弥彦山に「伊夜比古神」として祭られ崇敬された。

②神歌楽 (かがらく)

神武天皇即位の大典に際し、神歌楽を奉奏したと伝わる。

2、天香語山命の系譜

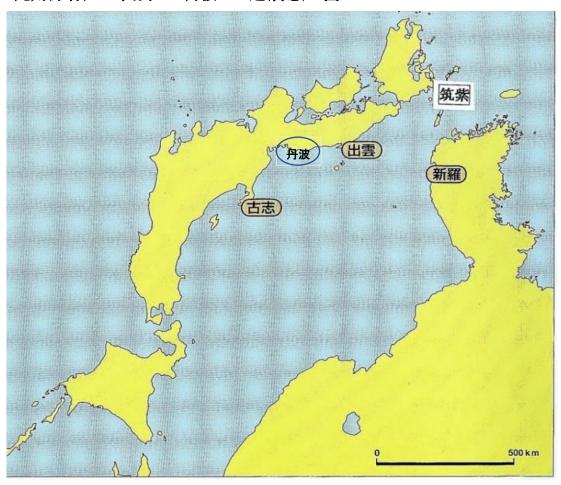
- (1)父はニギハヤヒ、母は市杵島姫
 - ①ニギハヤヒ(天火明命)



②市杵島姫

	越				
宗像三女神	市寸島比売命	多岐都比売命	多紀理毘売命	沼河比売	
夫	夫 ニギハヤヒ		大国主命	大国主命	
	(天火明命)				
子	天香語山命	事代主命	阿遅鉏高日子根命	建御名方神	
備考	尾張氏の祖	大神氏の祖	賀茂氏の祖		
彌彦神社の祭神		三輪山の祭神	髙鴨神社の祭神	諏訪大社の祭神	

3、古代神話の舞台は日本海側 九州(宗像)——出雲——丹波——越(古志)の国

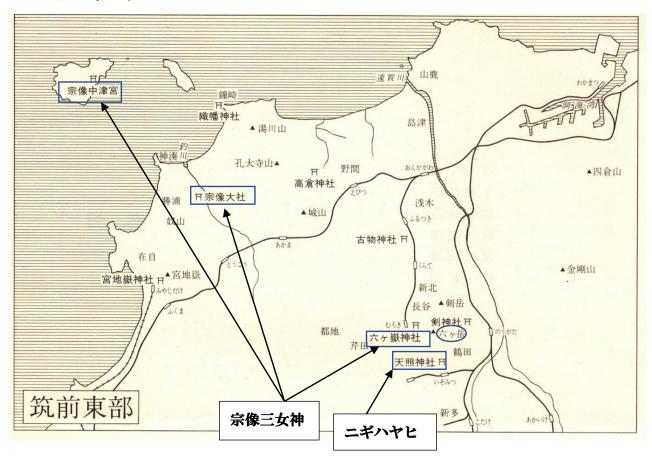


	筑紫	出雲	越(古志)	説 明
1	イザナギ	イザナミ		神生み・国生み神話
2	天照大神	スサノオ		天照大神は皇祖神
3	宗像三女神	大国主命	沼河比売	

4、古代神話は、筑紫と出雲を主たる舞台として進行する。

	地 名(国 名)	頻度	百分率
西海道(九州地)	筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、 方:肥後、日向、大隅、薩摩、壱岐、 対馬	36個	29. 59
山陰道(山陰地)	5: 出雲、因幡、丹波、丹後、伯耆、 院岐、但馬、石見	34	27. 9
	己伊・淡路:阿波、讃岐、伊予、土佐、 紀伊、淡路	13	10. 6
後 内(大和・L	山城・河内・和泉・摂津)	11	9. 0
東山道(出羽)		9	7. 4
○	?)	5	4. 1
上 北陸道(若狭、 長 山 四 送 <i>(</i> 播磨、 身	这前、加賀、能登、越中、越後、佐渡) 美作、備前、備中、備後、安芸、周防、\	4	3. 3
一 / 長門		4	3. 3
	中勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、 甲斐、相模、武蔵、安房、上総、下総、	3	2. 5
韓国		. 1	0.8
所在不明(淤能基品	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2	1. 6
	1.計算 有方式	122	100. 0
	也 名(国 名)	頻度	百分率
高天の原 (葦原中国 ((たかまのはら)	18個	38. 3%
葦原中国 (あしはらのなかつくに)	13	27. 7
	よみのくに)	8	17. 0
水 穂 国 (みずほのくに)	3	6. 4
根の堅州国(ねのかたすくに)	2	4. 3
夜の食国(よるのをすくに)	15	2. 1
常世国(とこよのくに)	1	2. 1
j 海 原(うなばら)	1	2. 1
i · ·	计学学学	47	100. 0
1.49		頻度	百分率
現実的色彩をも	〇地名(国名)	122個	72. 2%
神話的色彩をも	つ地名 (国名)	47	27. 8
THE PERSON NAMED IN COLUMN	10 計 計 機 多 改	169	100. 0

5、ニギハヤヒ



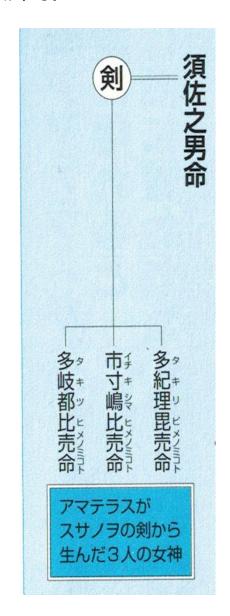
- (1)天照(てんしょう)神社(福岡県宮若市磯光 266)
 - ①旧鞍手郡の神社
 - ②祭神は饒速日尊 (にぎはやひ)
- ③神社名は、ニギハヤヒの「天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊(あまてる・くにてる・ひこあめのほあかり・くしたま・にぎはやのみこと)」に由来する。
- (2)近くの笠置山(かさぎやま)に降臨したと伝わる。

6、市寸島比売命

(1)誓約(うけひ)

宗像三女神は天照大神とスサノオの「誓約(うけひ)」によって生まれたとされている。

「誓約(うけひ)」とは「占い」のことで、「宇気比」、「祈」、「誓」などと書も書かれる。





天皇家の先祖

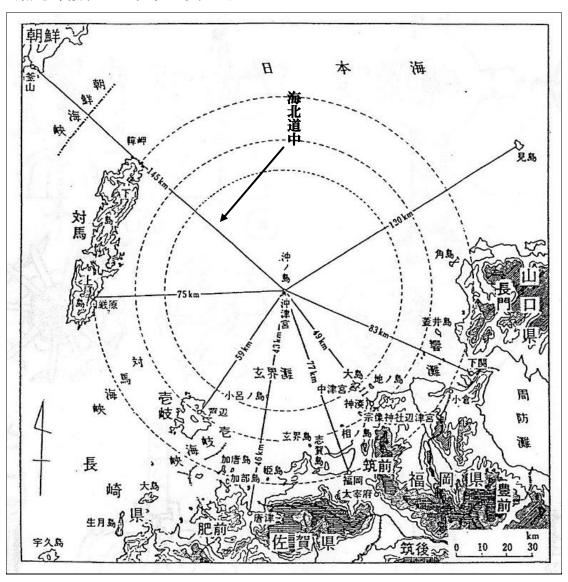
- 出雲神主家の先祖

(2)宗像三女神の宗像への経路

①『日本書紀』神代紀上・第六段第三の一書

「すなわち、日神(天照大神のこと)の生(あ)れませる三柱の女神を以ては、葦原中国の<u>宇佐嶋</u>に降りまさしむ。今、<u>海の北の中の道に在す</u>。号(なづ)けて<u>道主</u> 貴(ちぬしのむち)と日(まう)す」

- ②宇佐嶋= 宇佐神宮(大分県宇佐市)で比売大神として祭られている。
- ③宗像三女神は宗像の地に移動し、道主貴として「海の北の道の中」(朝鮮航路)を守護するよう命じられる。



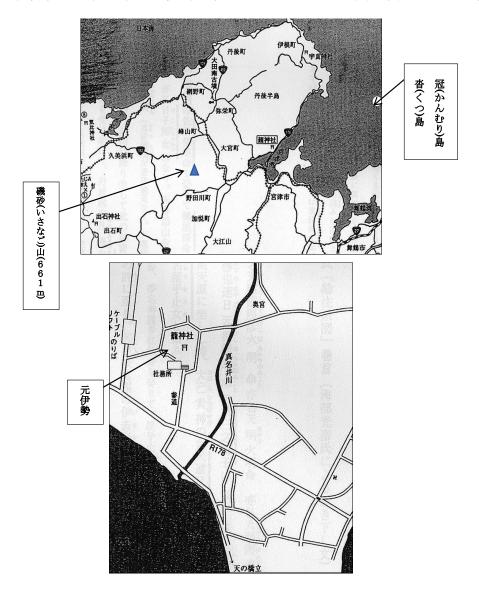
(3)宇佐から宗像に至る伝承地

宇佐→英彦山→飯塚市(鹿毛馬)→六ヶ岳(鞍手郡鞍手町)→宗像

① 六ヶ岳(鞍手郡鞍手町)

飯塚市の鹿毛馬(かけのうま)を通過し、鞍手郡鞍手町の六ヶ岳(標高 338.9m 旭岳・天冠・羽衣・高祖・崎戸・出穂の六峰)の崎戸に天降りして、そののち宗像に至ったという。→六嶽神社(鞍手郡鞍手町室木)

- 7、ニギハヤヒと市寸島比売命は丹波に降臨
- (1)籠神社(京都府宮津市)の社家・海部氏に伝わる系図
 - ·『籠名神社祝部氏係図』1巻(「本系図」)【S.51 国宝】
 - ·『籠名神宮祝部丹波国造海部直等氏之本記』1巻(「勘注系図」)【S.51 国宝】



「勘注系図」 (2)

始祖彦火明命

亦名天火明命亦名天照國照彦火 明 命 亦名天明 火明命 亦名天照御魂命。

此神は正哉吾勝勝也速日天押穂耳尊の第三之御子にして、母は高皇産霊神の女栲幡千々姫命ののないは、かあかっかっゃはやびゅるのかいにはみみのかいと

なり。 彦火明命高天原に坐しし時、大己貴神の女天道日女命を娶りて天香語山命を生みます。

天道日女命は亦名屋乎止女と云ふ。

(大己貴神多岐津姫命、亦名神屋多底姫命を娶りて、屋乎止女命、亦名高光日女命を生みます。)

天に上りて御祖の許に至る。 其の後當國の伊去奈子嶽に降り坐す。

(丹後国は本、丹波國と合せて一國たり。日本根子天津御代豊國成姫天皇の御字の時に、 詔りして丹波國五郡を割き

て丹後國を置く。丹波と号くる所以は往昔豊宇氣大神當國の伊佐奈子嶽に降り坐しし時、 天道日女命等大神に五穀及

桑蚕等の種を請ふ。 即ち其嶽に眞名井を掘り其水を灌ぎて、 以て水田陸田を定めて悉に植ゑ給ふ。 即ち大神之を見そ

なはして大く歡喜びあなにえし面植みし田庭と詔り給ふ。 其の後大神は復高天原に登ります。 故れ 田 庭と云ふ。 丹波の

本字は田庭にして多尓波と訓ずるは當國風土記に在り。)

爾に火明命佐手依姫命を娶りて穂屋姫命を生みます。 佐手依姫命は亦名市杵嶋姫命、 亦名息津嶋姫

命、 亦名日子郎女神なり。 天香語山命穂屋姫命を娶りて天村雲命を生みます。 其の後天祖 のふたつの

電神寶 丹波國に降り坐して此の神寶を齋き奉り、 (息津鏡及び邊津鏡是なり。 天鹿兒弓と天羽々矢を副へ賜る。) を火明命に授け給ひて、 速かに國土を造り修めよと詔り給ふ。 汝宜しく 故意に

火明命之を受け給ひて、 丹波國の凡海息津嶋に降り坐す。

葦原中國の

(其の凡海と号くる所以は古老傳へて曰く、 往昔天下治しめすに當 n 大穴持神少彦名神と此 地に到り坐しし時

海

中の大嶋 小嶋を引集へ、 小嶋凡そ拾を以って壹の大嶋と成す、 故名づけて凡海と云ふ。 當國の風土記にあり。)

ひ、 爾に火明 汝宜 しく此 命其の後由良の水門に遷り坐しし時、 の神質を驚ひ奉りて、 速かに國土を造り修めよと詔り給ふ。 即ち其の神寶 (邊津鏡是也) を香語山命に分け授け給 彦火明 命の 又の名は ははにき

速日命、 亦の名は天照国照彦天火明櫛玉饒速日命、 亦の名は膽杵磯丹杵穂命にし

て八州を統め給へり。已にして速日命即ち天磐船に乗り、 亦名神饒速日命、 虚空に登りて凡河内国に降り坐す。 其

の後大和國鳥見白辻山に遷り坐して、 遂に登美屋彦の妹登美屋姫を娶りて可美眞手命を生みます。

是に即ち其の弓矢及び神衣帯手貫等を其の妃に授け、 復天翔りて丹波國に遷り坐して、凡海の息津

嶋に留り坐す

8、ニギハヤヒの近畿東遷

(1) 『先代旧事本紀』

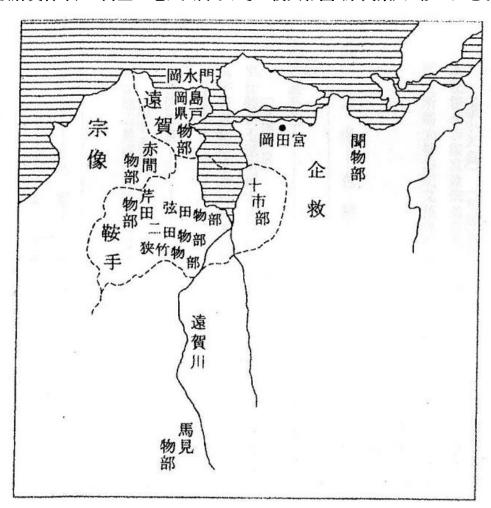
- ①ニギハヤヒは高千穂に天降ったニニギノミコトの弟とする。
- ②ニギハヤヒは北部九州の物部一族を率いて神武天皇より先に大和に天降り、 近畿を支配した。

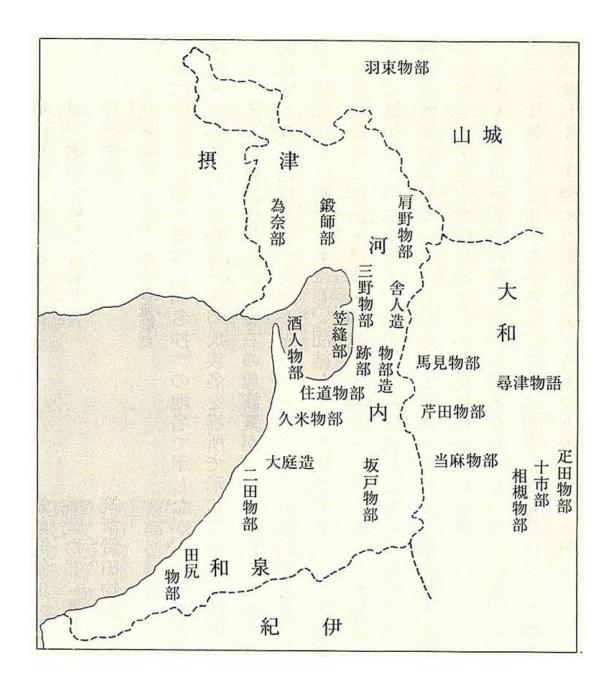
(2) 『古事記』

- ①神武天皇の東遷において大和地方の豪族ナガスネヒコが奉じる神として登場する。
- ②ナガスネヒコの妹のトミヤスビメ(登美夜須毘売)を妻とし、トミヤスビメ との間にウマシマジノミコト(宇摩志麻遅命)をもうけた。ウマシマジノミコ トは、物部連、穂積臣、采女臣の祖とされている。
- ③神武天皇が東征し、それに抵抗したナガスネヒコが敗れた後、服属した。

(3) 『日本書紀』

神武東遷に先立ち、天照大神から十種の神宝を授かり天磐船に乗って河内国 (大阪府交神市)の河上の地に天降り、その後大和国(奈良県)に移ったとする。





○東遷組織

(将軍	幕僚	司令官	副司令官	隊長	兵卒	御座船
ニギハヤヒ	32 人	5人	5人	25 人	数千人?	天の磐船

(4)ニギハヤヒに随行した 32 人(『先代旧事本紀』)

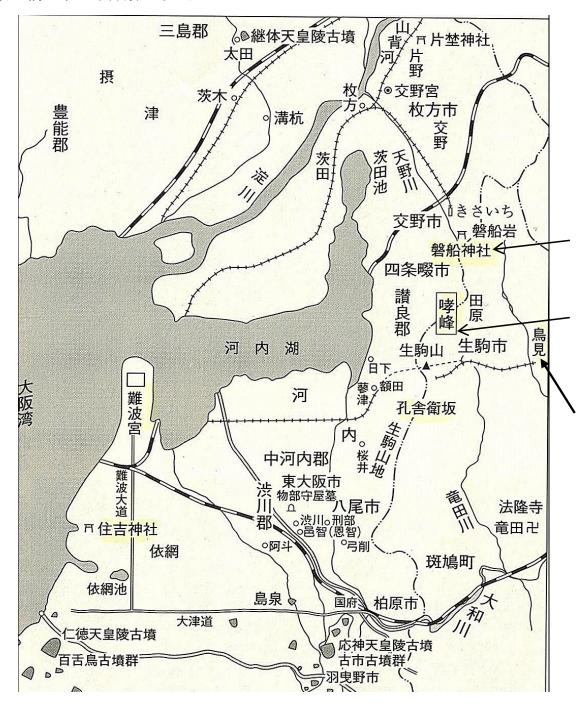
		天岩戸	天孫降臨
(1)天香語山命(あまのかごやま)	尾張連らの祖。		
(2)天鈿売命(あまのうずめ)	猿女君らの祖	0	0
(3)天太玉命(あまのふとたま)	忌部首らの祖	0	0
(4)天児屋命(あまのこやね)	中臣連らの祖	0	0
(5)天櫛玉命(あまのくしたま)	鴨県主らの祖		
(6)天道根命(あまのみちね)	川瀬造らの祖		
(7)天神玉命(あまのかむたま)	三嶋県主らの祖		
(8)天椹野命(あまのくぬ)	中跡(なかと)直らの祖		
(9)天糠戸命(あまのぬかと)	鏡作連らの祖		
(10)天明玉命(あまのあかるたま)	玉作連らの祖		
(11)天牟良雲命(あまのむらくも)	度会(わたらい)神主らの祖		
(12)天背男命(あまのせお)	山背久我直らの祖		
(13)天御陰命(あまのみかげ)	凡河内(おおしこうち)直らの祖		
(14)天造日女命(あまのつくりひめ)	阿曇連らの祖		
(15)天世平命(あまのよむけ)	久我直らの祖		
(16)天斗麻弥命(あまのとまね)	額田部湯坐(ぬかたべのゆえ)連らの祖		
(17)天背斗女命(あまのせとめ)	尾張中嶋海部直らの祖		
(18)天玉櫛彦命(あまのたまくしひこ)	間人(はしひと)連らの祖		
(19)天湯津彦命(あまのゆつひこ)	安芸国造らの祖		
(20)天神魂命(あまのかむたま)	葛野鴨(かどののかも)県主らの祖		
(21)天三降命(あまのみくだり)	豊国宇佐国造らの祖		
(22)天日神命(あまのひのかみ)	対馬県主らの祖		
(23)乳速日命(ちはやひのみこと)	広沸湍神麻続(ひろせかむおみ)連らの祖		
(24)八坂彦命(やさかひこ)	伊勢神麻続(いせのかむおみ)連らの祖		
(25)伊佐布魂命(いさふたま)	倭文(しどり)連らの祖		
(26)伊岐志迩保命(いきしにほ)	山代国造らの祖		
(27)活玉命(いくたま)	新田部 (にいたべ) 直の祖		
(28)少彦根命(すくなひこね)	鳥取 (ととり) 連らの祖		
(29)事湯彦命(ことゆつひこ)	取尾(とりお)連らの祖		
(30)表春命(うわはる・思金神の子)	信乃阿智祝部(あちのいわいべ)らの祖	Δ	Δ
(31)天下春命(したはる・思金神の子)	武蔵秩父国造らの祖	Δ	Δ
(32)月神命(つきのかみのみこと)	壱岐県主らの祖		

(5)ニギハヤヒは「河内国河上哮峯」に天降り

○磐船神社(大阪府交野市私市9丁目)

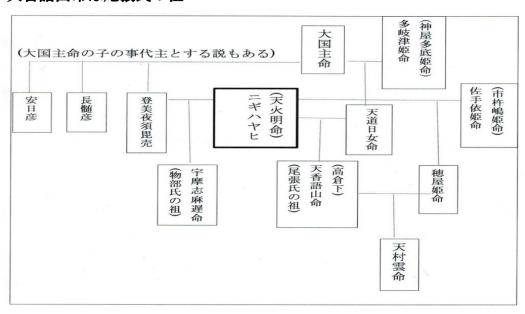
【祭神】天照国照彦天火明奇玉神饒速日尊

高さ約 12 メートル・長さ約 12 メートルの舟形巨岩が御神体。本殿はなく、 巨岩の前に小さな拝殿がある。



9、神武東遷に協力した天香語山命=高倉下

(1) 天香語山命は尾張氏の祖



(2)神武軍を救援するため高倉下が神剣を持って駆けつける――『古事記』

條忽かに惑えまし、また御軍も皆惑えて伏しき。 時、 まひき。 故 名は布都御魂と云ふ。この刀は石上神宮に坐す。 生土布都神と云ひ、亦の名は甕布都神と云ひ、亦の 故、天つ神の御子、その横刀を獲し所由を問ひたまへば、高倉下答へ日 まをしき。ここにまた、 つ神の御子に獻れ。』とまをしたまひき。 倉の頂を穿ちて、それより墮し入れむ。 らずとも、 御子等不平みますらし。その葦原中國は、 ししく、「己が夢に、天照大神、 倉を見れば、 を召びて詔りたまひけらく、 自ら皆切り作さえき。とこにその惑え伏せる御軍、 ふりの横刀を費ちて、天つ神の御子の伏したまへる地に到りて獻りし 御子をとれより奥つ方にな入り幸でまさしめそ。荒ぶる神甚多なり。 建御雷神降るべし。』とのりたまひき。ここに答へ曰ししく、 天つ神の御子、すなはち寤め起きて、「長く寢つるかも。」と詔りた 神倭伊波禮毘古命、 大熊髪かに出で入りてすなはち失せき。 故、 専らその國を平けし横刀あれば、 信に横刀ありき。 その横刀を受け取りたまひし時、 高木大神の命もちて覺し白しけらく、 其t 地より廻り幸でまして、 『葦原中國はいたく騒ぎてありなり。 故、この横刀をもちて獻りしにこそ。」と 高木神、 この刀を降さむ狀は、 故、 故、 二柱の神の命もちて、建御雷神 専ら汝が言向けし國なり。 朝目吉く汝取り持ちて、 この刀を降すべし。 夢の教 ここに神倭伊波禮毘古命、 その熊野の山の荒ぶる神 この時熊野の高倉下、 熊 への如に、旦に己が 悉に寤め起きき。 野村に到り 高倉下が 『僕は降 ましし 我なが

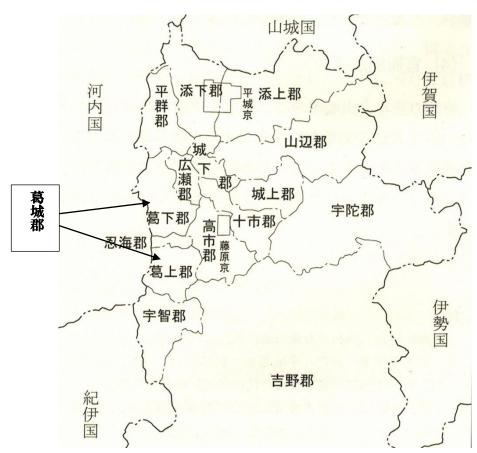
(3)高倉下がもたらした神剣

出雲の国譲りの際、建御雷神が稲佐の浜に突き立てた剣



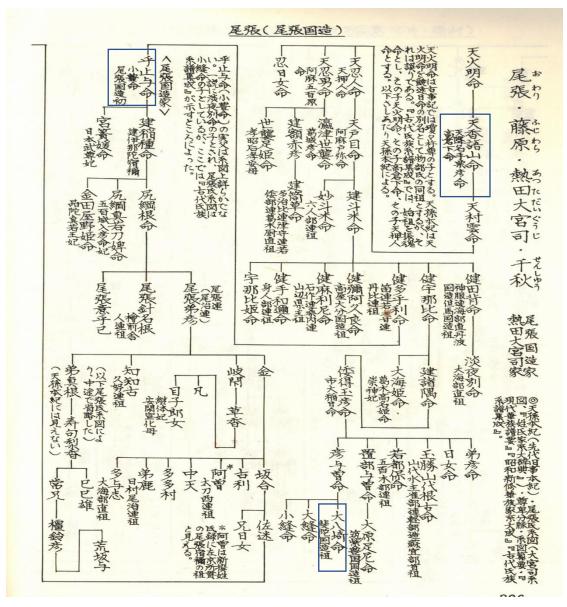
(4)高倉下=天香語山命は高尾張邑を拠点としていた。

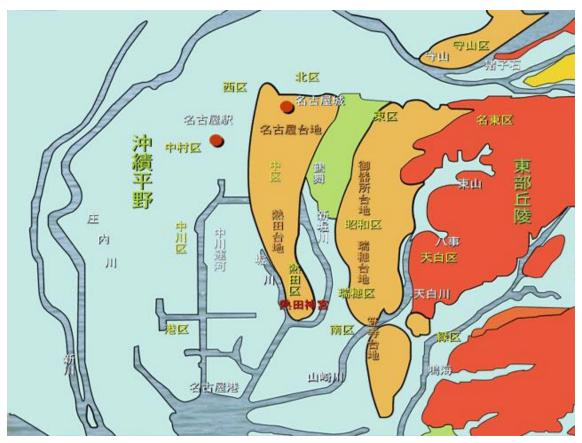
- ①『日本書紀』によれば、高尾張邑=葛城邑。
- ② 葛城・・奈良盆地の南西部、金剛山地の東麓
- ③ その後、天香語山命は一族郎党とともに尾張(愛知県)に移住



(5)尾張(愛知県)は尾張氏の拠点

	3-2 東海道	の国造①					
国名	伊 賀	伊 勢	嶋 津	尾張	参 河	穂	遠淡海
時代	(13)成務	(1)神武	(13)成務	(13)成務	(13)成務	(21)雄略	(13)成務
名称	意知別	天日鷲命	出雲笠夜命	小止与命	知波夜命	莵上足尼	印岐美命
先祖	(11)垂仁	天牟久怒命	佐比禰足尼	天火明命	出雲色大臣	葛城襲津彦命	伊香色男命
氏族	伊賀臣	渡会氏	出雲臣	尾張氏	物部氏	葛城氏	物部氏
中心地域	伊賀市	伊勢市	志摩市	名古屋市	安城市	豊川市	浜松市
	久 怒	素賀	珠流河	庵 原	伊 豆	師 長	相 武
	(14)仲哀	(1)神武	(13)成務	(13)成務	(14)神功皇原	(13)成務	(13)成務
	印旛足尼	美志印命	片堅石命	思加部彦命	若建命	建許呂命	弟武彦
	伊香色男命		大新川命	吉備武彦命	天蕤戈命	天津彦根命	伊勢都彦
	物部氏		物部氏	吉備氏	物部氏		出雲臣
	磐田·袋井市	掛川市	富士·沼津市	静岡市	三島市	中郡•小田原市	海老名市·高座郡





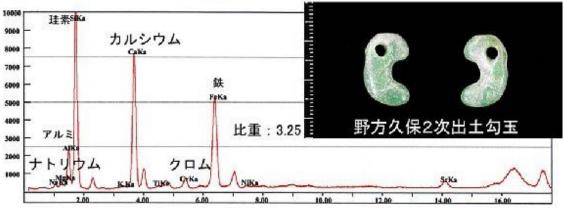
(6)尾張氏

熱田神宮大宮司を代々務め、また同族に住吉大社 (大阪市住吉区) の社家の津 守氏、籠神社 (京都府宮津市) の社家海部氏などがある。

10、海を越えた交流

(1)ヒスイの道





ヒスイ(硬玉) の蛍光 X 線分析結果

吉武高木遺跡(福岡市)

ヒスイの勾玉

福岡県 古武高木遺跡



这作作

宇木汲田遺跡(唐津市)



中原遺跡(唐津市)



縄文の勾玉

一津遺跡 長野県大町市 縄文後期から晩期 滑石







中村中平遺跡 長野県飯田市 縄文後期から晩期 土製

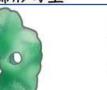


牙形勾玉



モデルの勾玉 調査中

緒締形勾玉



个宇木汲田遺跡 佐賀県唐津市 弥生中期・ヒスイ

默形(櫛形)勾玉



じちゅう 寺中遺跡 石川県金沢市 弥生中期・ヒスイ

はんけつがた 半玦形勾玉



中越遺跡 長野県長野市 弥生中期・ヒスイ

環状(鞍形)勾玉



中原遺跡 佐賀県唐津市 弥生中期・ヒスイ



西谷3号墓 島根県出雲市 弥生終末期・ガラス

尾部を巻き込んだ形の勾玉

す

5

Ĺ



三玉大塚古墳 広島県三次市 古墳中期・ガラス



藤の森古墳 大阪府藤井寺市 古墳中期・ガラス

ちょうじがしら 丁字頭勾玉



平原方形周溝墓 伊都国 王墓 福岡県糸島市 弥生終末期・ガラス

定形勾玉

C字形やコ字形



宇木汲田遺跡 佐賀県唐津市 弥生中期 ヒスイ



和泉黄金塚古墳 大阪府和泉市 古境前期 碧玉



月廻4号境 島根県松江市 古境中期 紫水晶



平尾野添横穴群 静岡県菊川市 古境後期 メノウ



唐古・鍵遺跡 奈良県磯城郡田原本町 弥生中期・ヒスイ



モデルの勾玉 調査中

合わせ勾玉



澤ノ坊2号墳 奈良県宇陀市 M 古境前期・ヒスイ

背中合わせ勾玉



博労町遺跡 鳥取県米子市 古墳前期·滑石

子持勾玉



カトンボ山古墳 大阪府堺市(消滅古墳) 古境中期•滑石



五所四反田遺跡 干葉県市原市 古墳中期•滑石

(2)貝の道



イモガイ ゴホウラ貝 0 1. 西原 2. ヤーヤ洞穴 3. 広田遺跡 4. 松ノ尾遺跡 5. 高橋貝塚 6. 大坪貝塚 7. 繁根木古墳 8. 吉野ヶ里遺跡 9. 隈・西小田遺跡 10. 吹上遺跡 サンゴ礁形成北限 11. 金隈遺跡 12. 諸岡遺跡 13. 安德台遺跡 14. 立岩遺跡 15. 竹並遺跡 3 16. 大坪地下式横穴 17. 土井ケ浜遺跡 18. 猪目洞穴 19. 夢野遺跡 20. 紫金山古墳 200km 図 4 ゴホウラ製貝輪の出土分布図

河村哲夫(かわむら・てつお)

1947年(昭和 22)年福岡県柳川市生まれ。 九州大学法学部卒 歴史作家、日本古代史ネットワーク副会長 福岡県文化団体連合会顧問 ふくおかアジア文化塾代表 立花壱岐研究会会員 元『季刊邪馬台国』編纂委員長 西日本新聞 TNC 文化サークル講師 朝日カルチャーセンター講師 大野城市山城塾講師

〈おもな著作〉

『志は、天下~柳川藩最後の家老・立花壱岐~(全 5 巻)』(1995 年海鳥社)

「小楠と立花壱岐」(1998 年『横井小楠のすべて』(新人物往来社)

『立花宗茂』(1999年、西日本新聞社)

『柳川城炎上~立花壱岐・もうひとつの維新史~』(1999 年角川書店)

『西日本古代紀行~神功皇后風土記~』(2001 年西日本新聞社)

『筑後争乱記~蒲池一族の興亡~』(2003 年海鳥社)

『九州を制覇した大王~景行天皇巡幸記~』(2006年海鳥社)

『天を翔けた男~西海の豪商・石本平兵衛~』(2007年11月梓書院)

「北部九州における神功皇后伝承」(2008年、『季刊邪馬台国』197号、98号)

「九州における景行天皇伝承」(2008年、『季刊邪馬台国』99号)

「『季刊邪馬台国』100 号への軌跡」(2008 年、『季刊邪馬台国』100 号)

「小楠と立花壱岐1(2009年11月、『別冊環・横井小楠』藤原書店)

『**龍王の海~国姓爺・鄭成功~**』(2010 年 3 月海鳥社)

「小楠の後継者、立花壱岐」(2011年1月、『環』藤原書店)

『天草の豪商石本平兵衛』(2012年8月藤原書店)

『神功皇后の謎を解く~伝承地探訪録~』(2013年12月原書房)

『景行天皇と日本武尊~列島を制覇した大王~』(2014 年 6 月原書房)

『法顕の旅・ブッダへの道』(2012~2016 年『季刊邪馬台国』114 号~124 号に連載)

(テレビ・ラジオ出演)

平成31年1月NHK「日本人のおなまえっ! 金栗の由来・ルーツ」 平成28年よりRKBラジオ「古代の福岡を歩く」レギュラー出演